

# 直接、触れて感じたこと

7月26日から3泊4日の日程で、市内在住の中学生6人が韓国を訪れました。行き先は、安来市の姉妹都市である韓国密陽市。今回で9回目となるこの事業は、青少年の国際感覚を育むことを目的に取り組んでいます。ここでは、韓国文化や暮らしを体験した皆さんの感想の一部を紹介します。



(左上) 韓国の伝統衣装チマチョゴリを着てみました。(右上) 密陽市にある嶺南楼で建物の歴史を聞く皆さん。(左下) 密陽市庁を訪問。市の職員から歓迎を受けるとともに、まちの概要の説明を受けました。(右下) 伝統文化の一つである組紐づくりに挑戦しました。

## 第一中学校1年

木戸 健太さん



ポテトフライに砂糖が付いていたのが印象的でした。韓国は竹島を占領しているというイメージが強かったが、実際に触れ合っているいろいろな面を知ることができました。

## 第一中学校1年

佐伯 新さん



密陽市のスーパード、「日本語ができる人はいますか？」と韓国語で聞くと優しく対応してもらえました。韓国の方と直接やりとりでき自信になりました。

## 広瀬中学校3年

富田 陽光さん



密陽市庁の方々とは握手をした時、その手は大きく、温もりを感じました。ソウル市内はとても大きなビルが立ち並び、東京よりも発展しているように驚きました。

## 広瀬中学校2年

春日 結蘭さん



韓国の歴史において、昔から日本が関わっている点が多いことが分かりました。両市が交流している理由や密陽市に住む方々の話を聞く機会がありました。

## 広瀬中学校3年

池田 稀さん



韓国語を勉強中ですがネイティブに触れる機会が少ないため、今回、実際に韓国語を聞き、使うことができてうれしかったです。様々な国に触れ、国際的に活躍していきたいです。

## 広瀬中学校2年

門脇 和乃葉さん



チマチョゴリを着た時、暖かくて、見た目が華やかで着物に少し似ていると思いました。韓国料理は辛いものだと先入観を持っていましたが、冷麺やチヂミはおいしかったです。